

CONTENTS

- 特色GPとは?
- 学長・学部長あいさつ
- 経済学基礎知識1000題とは?
 - ▶ 選定理由・これまでの取組
 - ▶ 教育効果を上げる工夫
 - ▶ 自学自習システムの活用
 - ▶ 自学自習システムの有効性と成果
 - ▶ 学習の流れ・実際の画面を見てみよう!
- 特集1「進化する自学自習システム」
- 特集2「政策学基礎知識1000題」
- 特集3「ブレントラーニング」授業体験
- 教員VOICE
 - ▶ 教員から見た経済学基礎知識1000題
- 学生VOICE
 - ▶ 学生の利用方法・利用成果
- 2007年度 活動内容
- イベント情報
- イベント開催報告
- 今後の展開
- ☒ お問い合わせ

教員VOICE

教員から見た経済学基礎知識1000題

「教員VOICE」では、経済学部各教員の担当する授業でのCCS「経済学基礎知識1000題」の利用方法などをリーフレット形式で毎月1人ずつ紹介します。



経済学部長
木船久雄 教授
▶ 前編 06.11.06 LP!
▶ 後編 06.11.15 LP!



経済学部
児島完二 助教授
▶ 前編 06.12.01 LP!
▶ 後編 06.12.15 LP!



経済学部
伊沢篤子 講師
▶ 前編 07.01.12 LP!
▶ 後編 07.02.01 LP!



経済学部
伊沢俊泰 教授
▶ 前編 07.03.01 LP!
▶ 後編 07.03.15 LP!

経済学部長 木船久雄 教授 ～前編～

社会の変化を予見する学問「経済学」とは

みなさんは「経済学」とは、どのようなことを学ぶ学問かと思っていますか? 経済と聞くと少し難しい言葉がイメージされるかもしれません。簡単にいうと経済学とは、モノやサービスを売ったり買ったりする経済活動のメカニズムを分析する学問。経済のメカニズムを知っていれば、経済的な動きに対して「次はこうなる」という先読みができます。政府や企業も、経済のメカニズムを利用して政策や戦略を行うこともあるのです。

私の担当する科目「資源経済学」も「資源」について経済学的ツールを用いて分析する学問です。ここでいう「資源」とは、石油や石炭、電力、天然ガスなど、世界の原油の埋蔵量が富士山1個分もないことをご存じでしたか? 授業では、農作物や鉄鉱石についても対象としています。どう経済学的に分析するのかというと、例えば、なぜ原油価格がすぐに値段が上がったり、下がったりするのか?、ガソリン価格が上昇しても消費量がすぐに減らないのはなぜか?、所得とエネルギー消費の関係といったことをテーマに授業を進めています。

授業に必要な基礎知識を「経済学基礎知識1000題」でフォロー

経済学は、大きくマクロ経済学とミクロ経済学に分かれます。マクロ経済学とは、国や地域の経済全体を分析対象とし、例えば政府が行うべき景気対策はどうあるべきか、アメリカ経済が日本経済に与える影響などを探ります。ミクロ経済学とは、個別の財市場(食べ物や服から株式、自動車まで、買い手と売り手が存在する状態)を分析対象とします。例えば、野菜の値段はどうして変動が激しくて、自動車の値段はそうではないのか?、映画館の子ども料金なぜ安く設定されているか? ということとを理論付けて説明します。

経済学的ツールを用いて「資源」について分析するためには、経済学の基礎科目である「マクロ経済学」や「ミクロ経済学」の知識が不可欠です。資源経済学は、これらを1年次に学んだ2年次以上が履修する科目ですが、一度は、経済学の基礎科目を学んだ経験があるとはいえ、2年次生の経済学に関する理解度は様々ではありません。

そこで、「経済学基礎知識1000題」の中の「ミクロ経済学」「マクロ経済学」の特定範囲を指定して、履修学生たちにその分野の自学自習を促します。「経済学基礎知識1000題」が存在するからこそ可能となる効果的な復習方法です。耳慣れない言葉や初めて学ぶ概念は、繰り返し学ぶことでその意味が理解でき、自分の頭脳に定着するものです。

[このページのトップへ](#)

経済学部長 木船久雄 教授 ～後編～

CCS、自学自習システムを最大限に活用

私が担当する「資源経済学」の授業形式は、プロジェクターを用いたプレゼンテーションスタイルを採用しています。黒板はほとんど使いません。講義内で使ったプレゼンテーション・ファイル(講義ノート)や紙の資料は、すべてCCSの授業資料にアップロードしています。また、出欠調査を行わない代わりに、CCSの「授業アンケート」を利用しています。これは、その日の講義テーマにかかわる重要項目について学生たちに質問を投げ、回答をネット上から受け取るというものです。さらに、授業内容に従って学期中(2～3回)の小テストを行っています。「資源経済学」用の自学自習コンテンツは、授業の進度に合わせてCCS上に開放していますから自学自習問題を解くことが小テスト対策になります。

今後は「資源経済学」用の自学自習コンテンツを拡充すること、授業のビデオ配信を可能とすること(現在取録中)が当面の目標です。「経済学基礎知識1000題」と経済専門科目のコンテンツを有機的に結びつけながら、自学自習システム利用の工夫を図っていきたくと考えています。

ゲーム感覚で楽しみながら利用してほしい

もし私が「経済学基礎知識1000題」を利用する立場だとしたら、授業科目の試験対策に使うことはいうまでもなく、公務員をめざしているならば全問正解を出すくらい繰り返し解きます。また、出題する教員が特定できるので、わからない問題はCCSを通して問い合わせたり、それをチャンスとして教員の研究室に質問に行ったりしますね。

利用者の方々には、学内に情報コンセントがいたるところにあるので、友人達とゲーム感覚で「解答ごっこ」を楽しんでもらえたらと思います。

名古屋学院大学 経済学部は、愛知県の私立大学では最も伝統と歴史のある学部です。「経済学基礎知識1000題」もそうですが、学部全体で真剣に学生の教育に取り組んでいます。入学してきた学生が持つ潜在的な能力を引き出しながら、彼らを入学期以上に高い社会的評価を持つ学生へと育てています。卒業時には、名古屋学院大学経済学部に入学期に比べて、と必ず思ってもらえるはずです。

Next >> [児島完二助教授インタビュー](#)

[このページのトップへ](#)

